

## 令和7年仙台市の人口動向

人口の動向は、自然動態（出生及び死亡の動き）及び社会動態（転入及び転出の動き）によって説明されます。この特集は、令和7年1年間の仙台市の人口動向について、社会動態を中心に報告するものです。

### 利用上の注意

- ・本報告書で用いた地域区分は次のとおりです。

仙台都市圏内の他市町村：（東部ブロック）塩竈市、多賀城市、松島町、七ヶ浜町、利府町  
（北部ブロック）富谷市、大和町、大郷町、大衡村  
（南部ブロック）名取市、岩沼市、亘理町、山元町

北海道地方：北海道

東北地方：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県  
東北5県は、東北地方から宮城県を除いた地域

関東地方：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

東京圏：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

中部地方：新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県

近畿地方：三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国地方：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国地方：徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州地方：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

※なお、本文中にある「その他の地方」は、特にことわりのない場合、上記のうち東北地方と東京圏を除いた地域をいいます。

### 用語の説明

- ・人口増加数＝自然増加数＋社会増加数
- ・自然増加数＝出生数－死亡数
- ・社会増加数＝転入数－転出数＋その他の増加数（職権記載・消除、国籍取得・喪失、転出取消等）

## 解説

### I 住民基本台帳人口（日本人住民＋外国人住民）による人口動向

#### 1 概要

令和7年末の住民基本台帳人口は106万3,198人でした。

また、令和7年1年間の人口増加数は△944人となり、前年の人口増加数△2,220人に比べ1,276人の増加となっています。その内訳は、自然増加数が△4,907人（対前年87人の増加）、社会増加数が3,963人（対前年1,189人の増加）となりました。

（表1、図1、統計表第1表）

表1 住民基本台帳人口の推移—全市、区（令和2年～令和7年）

年次	各年末（単位：人）							
	仙台市	青葉区	うち 宮城総合 支所	宮城野区	若林区	太白区	うち 秋保総合 支所	泉区
令和2年	1,065,932	293,003	74,642	190,567	137,281	232,642	3,978	212,439
3	1,065,365	292,827	74,720	190,228	137,282	233,642	3,858	211,386
4	1,067,486	295,255	74,649	189,431	137,911	234,493	3,783	210,396
5	1,066,362	296,023	74,320	188,223	138,414	234,772	3,767	208,930
6	1,064,142	296,338	73,713	187,541	138,173	234,710	3,762	207,380
7	1,063,198	296,662	73,078	186,936	138,248	235,122	3,761	206,230

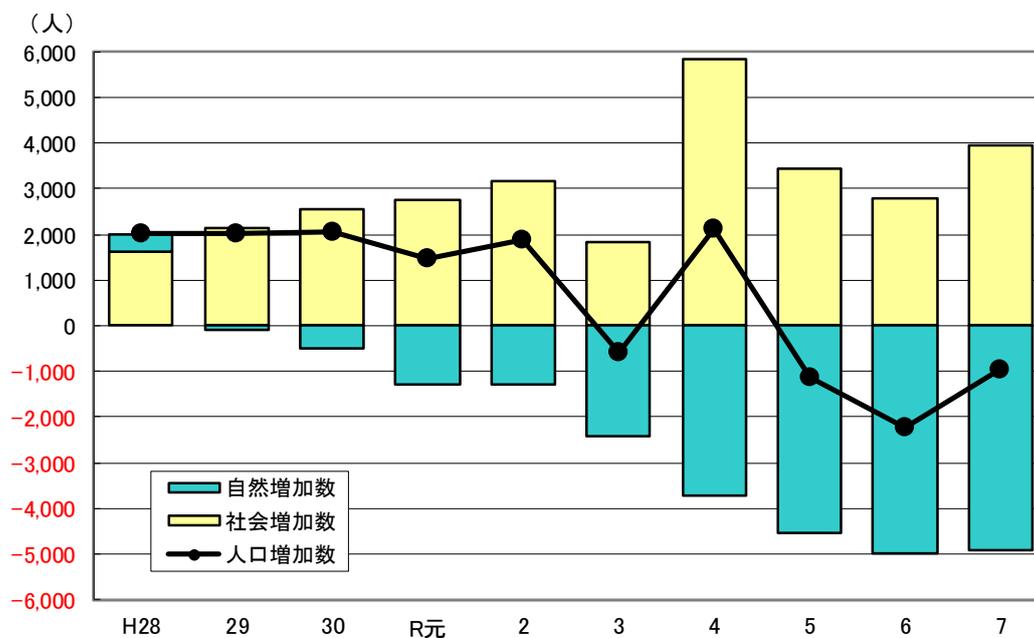


図1 人口増加数の推移（平成28年～令和7年）

区別の動向をみると、宮城野区と泉区において前年より人口が減少しました。一方、5区全てにおいて前年の人口増加数を上回りました。

人口増加数が最も多かったのは太白区の412人（自然増加数△1,059人、社会増加数1,471人）で、以下、青葉区の324人（自然増加数△1,618人、社会増加数1,942人）、若林区の75人（自然増加数△439人、社会増加数514人）、宮城野区の△605人（自然増加数△604人、社会増加数△1人）、泉区の△1,150人（自然増加数△1,187人、社会増加数37人）でした。

（表1、図2、統計表第1表）

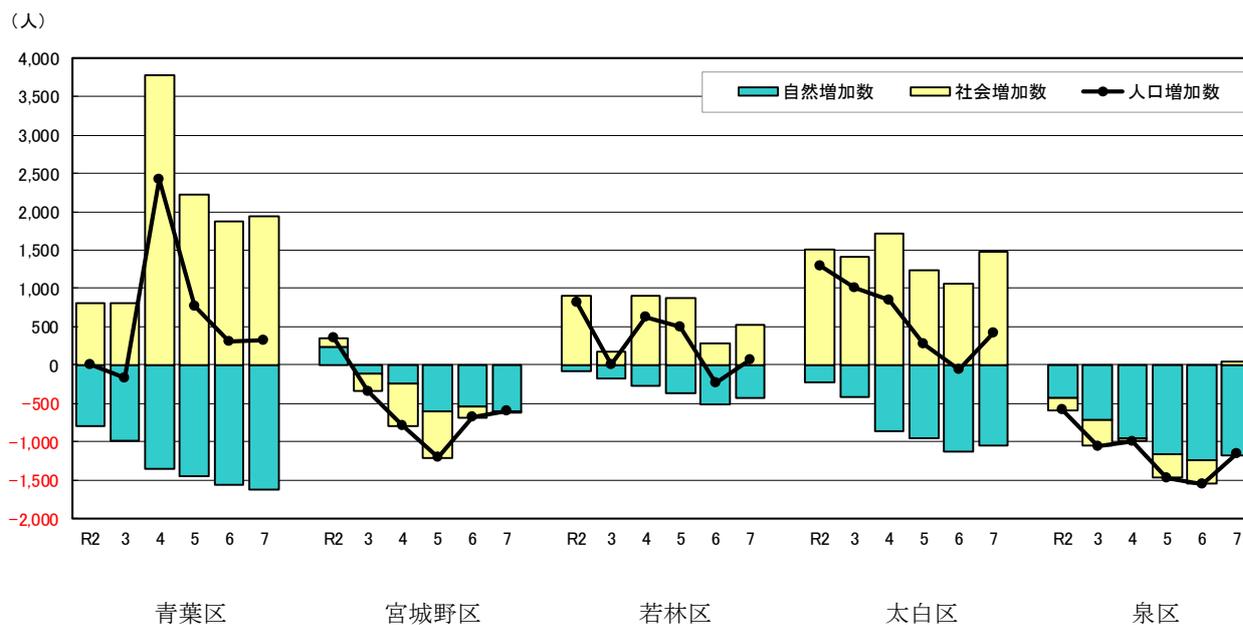


図2 人口増加数の推移－区（令和2年～令和7年）

## 2 自然動態

令和7年の出生数は前年より23人増加して6,301人、死亡数は前年より64人減少して11,208人、自然増加数は△4,907人となり、前年の△4,994人に比べ87人増加しました。自然増加数は12年ぶりの増加、出生数は5年ぶりの増加、死亡数は13年ぶりの減少となりました。

(図3、統計表第1表)

区別の動向をみると、出生数は若林区、太白区、泉区で増加しました。また、死亡数は青葉区、宮城野区、若林区で減少しました。

自然増加数のマイナス幅が最も小さかったのは若林区の△439人(出生数917人、死亡数1,356人)で、以下、宮城野区の△604人(出生数1,158人、死亡数1,762人)、太白区の△1,059人(出生数1,624人、死亡数2,683人)、泉区の△1,187人(出生数1,065人、死亡数2,252人)、青葉区の△1,618人(出生数1,537人、死亡数3,155人)でした。

(図4、統計表第1表)

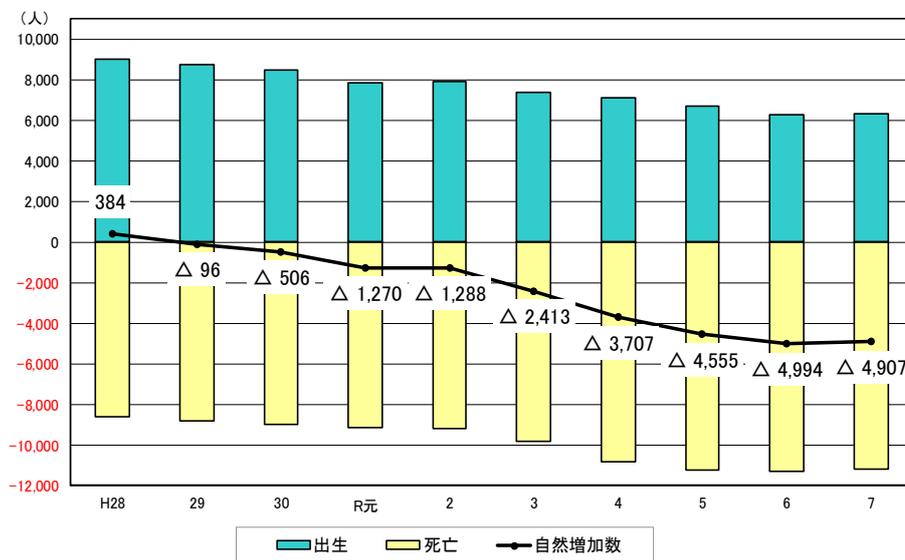


図3 自然動態の推移—全市（平成28年～令和7年）

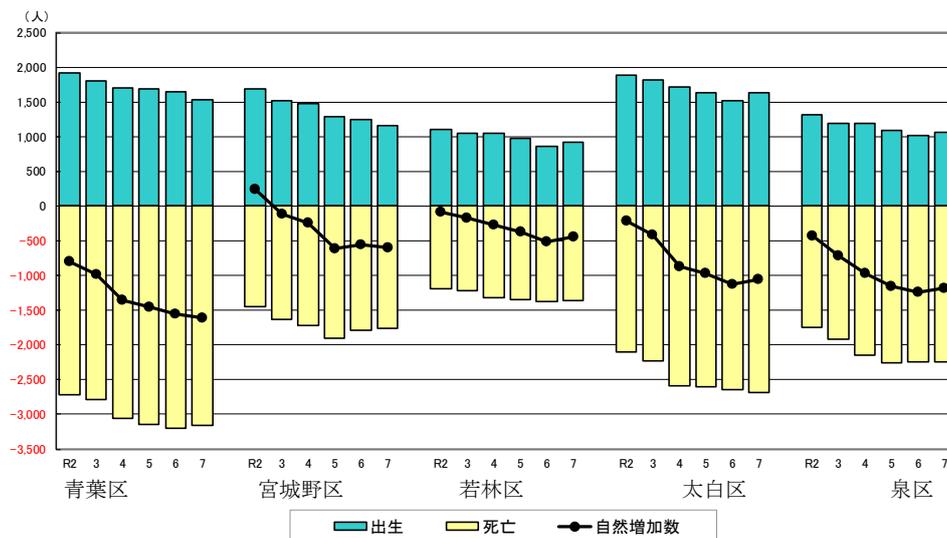


図4 自然動態の推移—区（令和2年～令和7年）

### 3 社会動態（区間移動含む）

令和7年の転入数は63,354人で前年より1,289人の減少、転出数は59,376人と前年より2,633人の減少となりました。この結果、転入・転出数の差にその他増加数△15人を加えた社会増加数は3,963人となりました。前年の社会増加数2,774人に比べ1,189人の増加となっています。

区別の動向をみると、青葉区、若林区、太白区で県内移動、県外・国外との移動がともに転入超過となりました。宮城野区では県内移動が転出超過、県外・国外との移動が転入超過となり、泉区では県内移動が転入超過、県外・国外との移動が転出超過となりました。

社会増加数が最も多かったのは青葉区の1,942人（転入数20,459人、転出数18,487人、その他増加数△30人）で、以下、太白区の1,471人（転入数12,428人、転出数10,987人、その他増加数30人）、若林区の514人（転入数9,022人、転出数8,524人、その他増加数16人）、泉区の37人（転入数9,144人、転出数9,059人、その他増加数△48人）、宮城野区の△1人（転入数12,301人、転出数12,319人、その他増加数17人）でした。

（図5、統計表第1表）

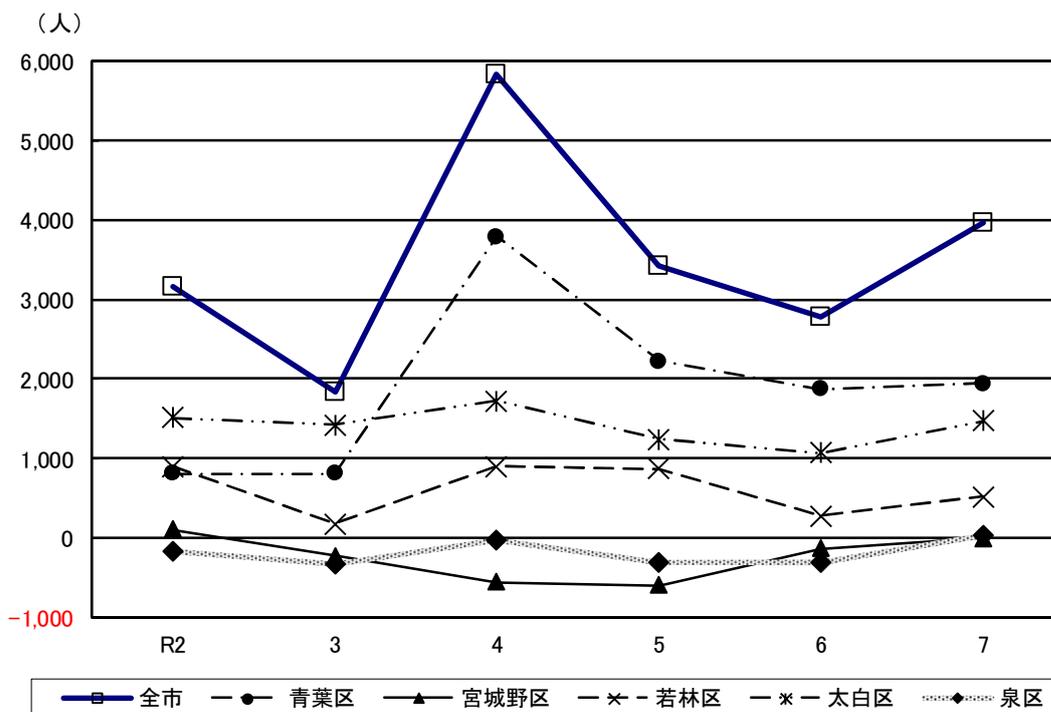


図5 社会増加数の推移—全市、区（令和2年～令和7年）

## II 住民基本台帳人口（日本人住民＋外国人住民）による社会動態

### 1 概要

令和7年の社会動態は、市外からの転入が44,235人、市外への転出が40,259人で、3,976人の転入超過となりました。

これを地域別にみていくと、東京圏及び仙台都市圏内の他市町村に対して転出超過となっています。また、仙台都市圏以外の宮城県の市町、東北5県、その他の地方（国外含む）に対しては転入超過となっています。

この結果、区間移動と職権記載等の「その他増加数」を加えた社会増加数は3,963人となり、前年から増加しました。

（表2、図6、統計表第2表、統計表第3表）

表2 転入数、転出数、社会増加数の推移—全市（平成28年～令和7年）

地 域	(単位：人)									
	平成28年	29	30	令和元	2	3	4	5	6	7
<b>転 入 数</b>	<b>46,561</b>	<b>46,948</b>	<b>46,888</b>	<b>46,888</b>	<b>44,314</b>	<b>43,061</b>	<b>47,136</b>	<b>45,545</b>	<b>44,710</b>	<b>44,235</b>
宮城県	10,629	11,080	11,149	10,911	11,005	10,399	10,140	10,131	9,983	9,754
仙台都市圏内の他市町村	5,441	5,758	5,814	5,734	5,825	5,378	5,318	5,271	5,099	5,005
" 以外の市町	5,188	5,322	5,335	5,177	5,180	5,021	4,822	4,860	4,884	4,749
東北5県	12,930	13,128	13,515	12,977	12,840	12,879	13,232	13,070	12,526	12,326
東京圏	10,747	10,530	10,187	10,227	9,995	10,237	10,086	9,902	9,502	9,111
その他の地方（国外含む）	12,255	12,210	12,037	12,773	10,474	9,546	13,678	12,442	12,699	13,044
<b>転 出 数</b>	<b>44,633</b>	<b>44,583</b>	<b>43,833</b>	<b>43,949</b>	<b>41,181</b>	<b>41,232</b>	<b>41,299</b>	<b>42,290</b>	<b>42,077</b>	<b>40,259</b>
宮城県	10,223	9,788	9,355	9,044	8,873	8,856	8,716	8,669	8,273	8,096
仙台都市圏内の他市町村	6,186	5,794	5,632	5,632	5,418	5,327	5,404	5,274	5,168	5,108
" 以外の市町	4,037	3,994	3,723	3,412	3,455	3,529	3,312	3,395	3,105	2,988
東北5県	9,168	9,044	8,866	8,986	8,877	8,729	8,425	8,191	8,039	7,783
東京圏	14,433	14,638	14,511	14,831	13,398	13,506	13,583	14,441	14,520	13,661
その他の地方（国外含む）	10,809	11,113	11,101	11,088	10,033	10,141	10,575	10,989	11,245	10,719
<b>社会増加数</b>	<b>1,928</b>	<b>2,365</b>	<b>3,055</b>	<b>2,939</b>	<b>3,133</b>	<b>1,829</b>	<b>5,837</b>	<b>3,255</b>	<b>2,633</b>	<b>3,976</b>
宮城県	406	1,292	1,794	1,867	2,132	1,543	1,424	1,462	1,710	1,658
仙台都市圏内の他市町村	△ 745	△ 36	182	102	407	51	△ 86	△ 3	△ 69	△ 103
" 以外の市町	1,151	1,328	1,612	1,765	1,725	1,492	1,510	1,465	1,779	1,761
東北5県	3,762	4,084	4,649	3,991	3,963	4,150	4,807	4,879	4,487	4,543
東京圏	△ 3,686	△ 4,108	△ 4,324	△ 4,604	△ 3,403	△ 3,269	△ 3,497	△ 4,539	△ 5,018	△ 4,550
その他の地方（国外含む）	1,446	1,097	936	1,685	441	△ 595	3,103	1,453	1,454	2,325
※参考										
その他増加数	△ 298	△ 241	△ 509	△ 194	27	17	△ 9	176	141	△ 13
" を含む社会増加数	<b>1,630</b>	<b>2,124</b>	<b>2,546</b>	<b>2,745</b>	<b>3,160</b>	<b>1,846</b>	<b>5,828</b>	<b>3,431</b>	<b>2,774</b>	<b>3,963</b>

(△は転出超過数)

※「その他増加数」には職権記載・消除、国籍取得・喪失等のほか、市内区間移動増減数が含まれている。

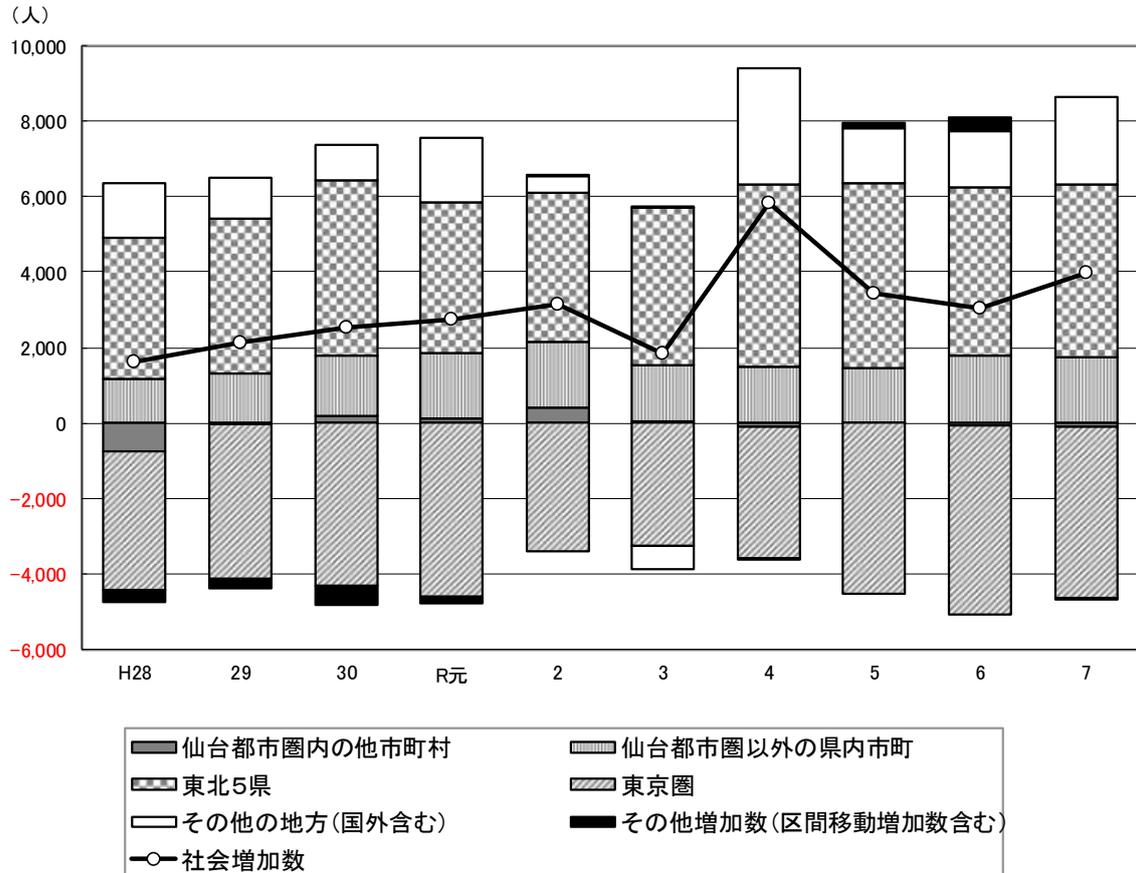


図6 地域別社会増加数（転入数－転出数）（平成28年～令和7年）

※地域別内訳の詳細については、図7～11を参照ください。

## 2 東京圏に対する人口移動

東京圏に対する人口移動は、転入数が9,111人、転出数が13,661人で、4,550人の転出超過となり、前年比で転出超過が縮小しています。

（表2、図6、図7、統計表第2表）

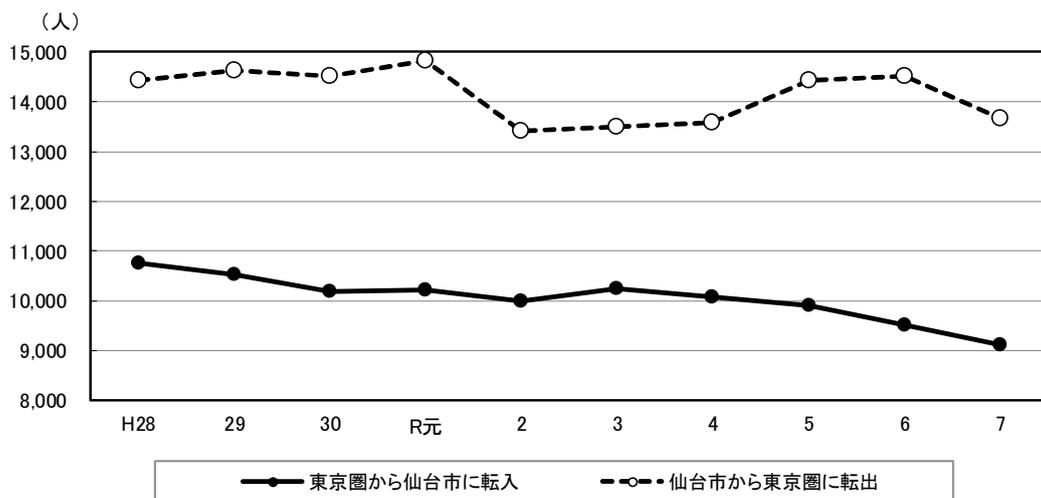


図7 東京圏との転出入数（平成28年～令和7年）

### 3 東北5県及びその他の地方（国外含む）に対する人口移動

東北5県に対する人口移動は、転入数が12,326人、転出数が7,783人で、4,543人の転入超過となりました。

(表2、図6、図8、統計表第2表)

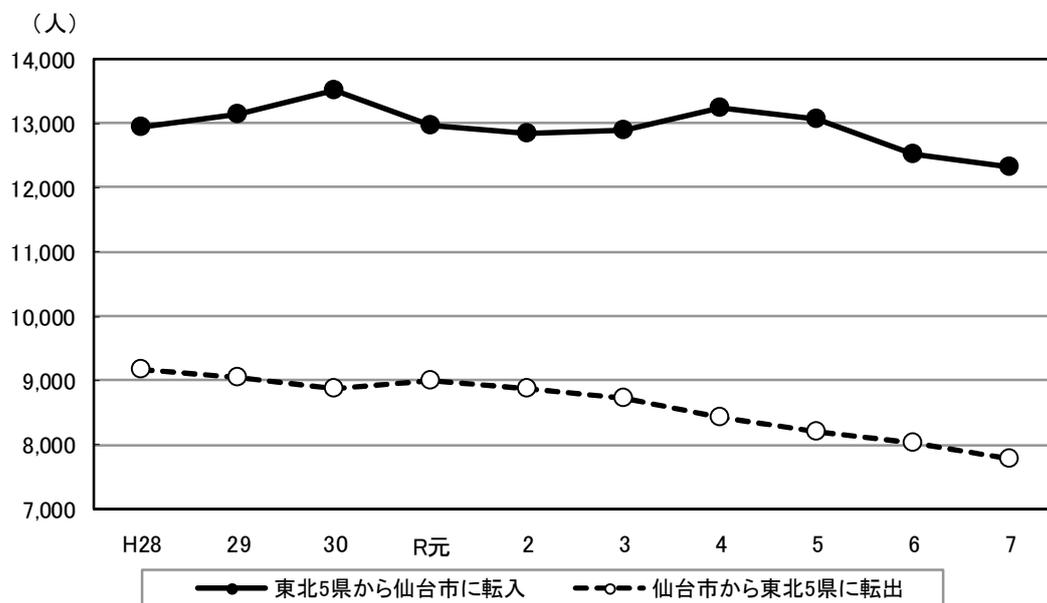


図8 東北5県との転出入数 (平成28年～令和7年)

その他の地方（国外含む）に対する人口移動は、転入数が13,044人、転出数が10,719人で、2,325人の転入超過となりました。

(表2、図6、図9、統計表第2表)

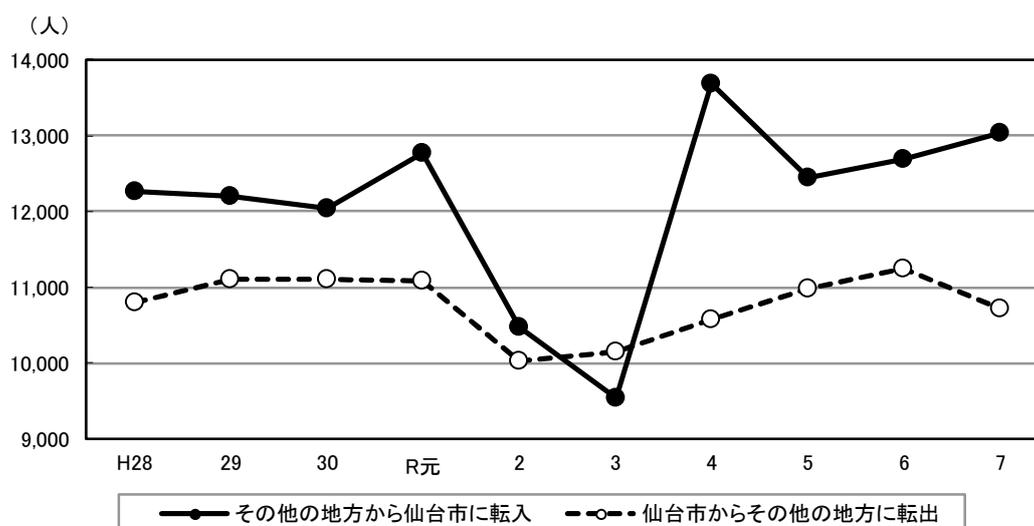


図9 その他の地方との転出入数 (平成28年～令和7年)

#### 4 県内他市町村に対する人口移動

仙台都市圏内の他市町村に対する人口移動は、転入数が 5,005 人、転出数が 5,108 人で、103 人の転出超過となりました。市町村別の内訳をみると、転入超過が 8 市町、転出超過が 5 市町村となっています。

(表 2、図 6、図 10、統計表第 3 表)

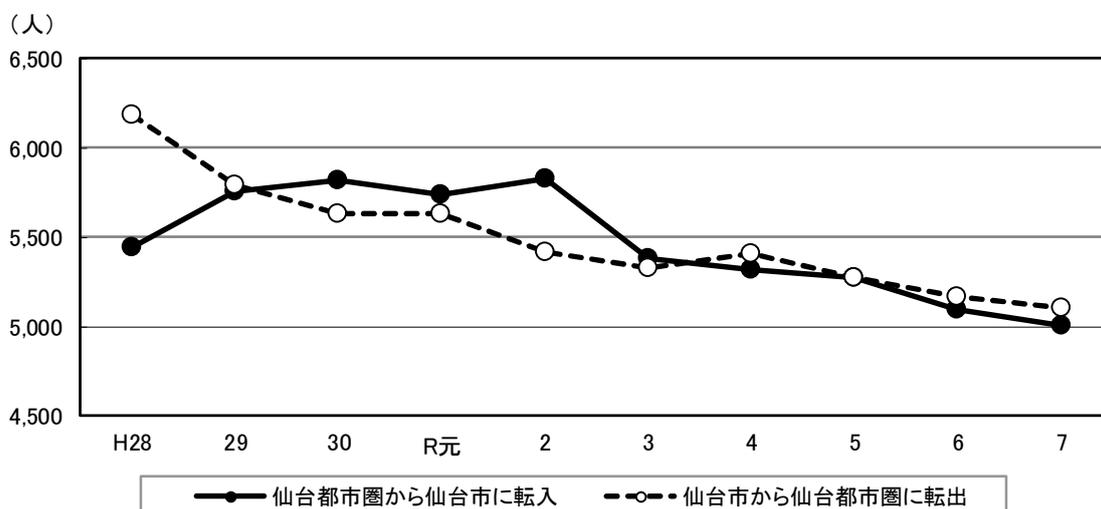


図 10 仙台都市圏との転出入数 (平成 28 年～令和 7 年)

仙台都市圏以外の県内市町村に対する人口移動は、転入数が 4,749 人、転出数が 2,988 人で、1,761 人の転入超過となりました。

(表 2、図 6、図 11、統計表第 3 表)

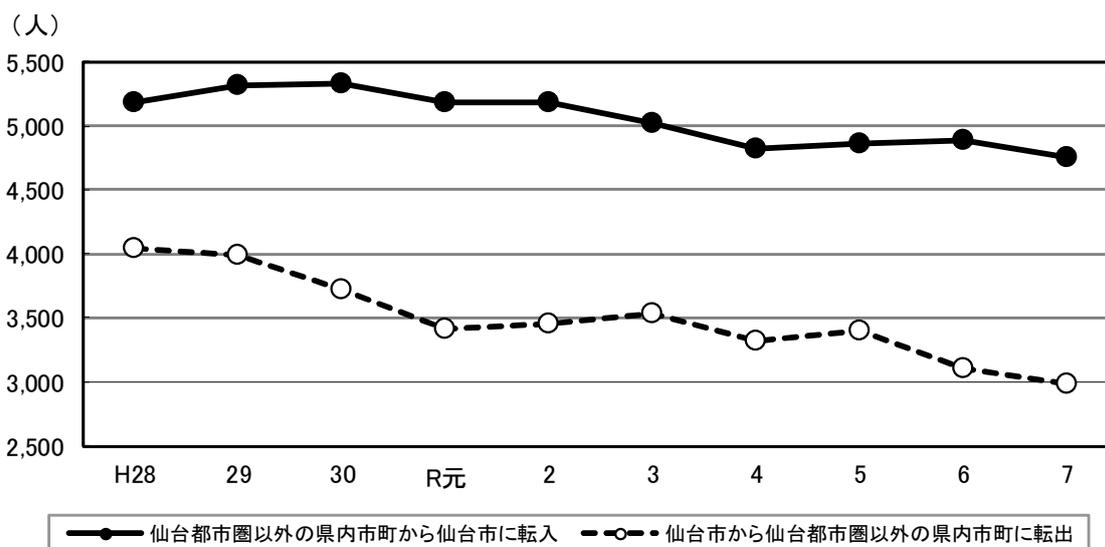


図 11 仙台都市圏以外の県内市町村との転出入数 (平成 28 年～令和 7 年)

## 5 区別の社会動態

令和7年の区別社会動態は、青葉区、若林区、太白区、泉区で社会増となり、宮城野区で社会減となりました。その内訳について、次のような点が特徴として挙げられます。

- ① 市内他区に対しては、青葉区、宮城野区で転出超過。他3区は転入超過。
- ② 県内市町村に対しては、全区で転入超過。
- ③ 東北5県に対しては、全区で転入超過。
- ④ 東京圏に対しては、全区で転出超過。
- ⑤ その他の地方（国外含む）に対しては、泉区のみ転出超過。他4区は転入超過。

(表3、図12、統計表第4表)

表3 社会増加数の地域別内訳一区（令和2年～令和7年）

(単位：人)

区、年次	社会 増加数	市内 他区	宮城県		東北 5県	東京圏	その他の 地方 (国外含む)	その他 増加数	
			仙台 都市圏	仙台 都市圏外					
<b>青葉区</b>									
令和2年	805	△ 50	627	143	484	1,344	△ 1,286	236	△ 66
3	810	△ 158	572	213	359	1,847	△ 1,280	△ 133	△ 38
4	3,786	277	697	213	484	1,955	△ 1,280	2,174	△ 37
5	2,225	131	687	279	408	1,928	△ 1,602	1,047	34
6	1,871	△ 165	535	102	433	1,670	△ 1,610	1,422	19
7	<b>1,942</b>	<b>△ 147</b>	<b>647</b>	<b>170</b>	<b>477</b>	<b>1,411</b>	<b>△ 1,451</b>	<b>1,512</b>	<b>△ 30</b>
<b>宮城野区</b>									
令和2年	111	△ 695	338	△ 34	372	731	△ 394	182	△ 51
3	△ 224	△ 578	44	△ 238	282	723	△ 688	234	41
4	△ 554	△ 909	44	△ 238	282	723	△ 688	234	42
5	△ 599	△ 791	60	△ 257	317	689	△ 743	174	12
6	△ 132	△ 525	126	△ 216	342	961	△ 870	121	55
7	<b>△ 1</b>	<b>△ 549</b>	<b>65</b>	<b>△ 251</b>	<b>316</b>	<b>744</b>	<b>△ 598</b>	<b>320</b>	<b>17</b>
<b>若林区</b>									
令和2年	898	457	289	41	248	527	△ 419	△ 18	62
3	179	△ 281	124	△ 54	178	520	△ 360	180	△ 4
4	902	487	124	△ 54	178	520	△ 360	180	△ 49
5	869	456	190	40	150	609	△ 524	101	37
6	277	159	231	△ 63	294	577	△ 713	△ 10	33
7	<b>514</b>	<b>224</b>	<b>194</b>	<b>△ 38</b>	<b>232</b>	<b>634</b>	<b>△ 669</b>	<b>115</b>	<b>16</b>
<b>太白区</b>									
令和2年	1,509	768	499	131	368	869	△ 710	46	37
3	1,418	62	453	81	372	1,062	△ 549	339	51
4	1,720	392	453	81	372	1,062	△ 549	339	23
5	1,242	596	305	△ 31	336	1,119	△ 970	128	64
6	1,070	606	482	79	403	840	△ 978	56	64
7	<b>1,471</b>	<b>448</b>	<b>446</b>	<b>36</b>	<b>410</b>	<b>1,078</b>	<b>△ 928</b>	<b>397</b>	<b>30</b>
<b>泉区</b>									
令和2年	△ 163	△ 460	379	126	253	492	△ 594	△ 5	25
3	△ 337	△ 504	106	△ 88	194	547	△ 620	176	△ 42
4	△ 26	△ 240	106	△ 88	194	547	△ 620	176	5
5	△ 306	△ 381	220	△ 34	254	534	△ 700	3	18
6	△ 312	△ 74	336	29	307	439	△ 847	△ 135	△ 31
7	<b>37</b>	<b>26</b>	<b>306</b>	<b>△ 20</b>	<b>326</b>	<b>676</b>	<b>△ 904</b>	<b>△ 19</b>	<b>△ 48</b>

※「その他増加数」には職権記載・消除、国籍取得・喪失等が含まれている。

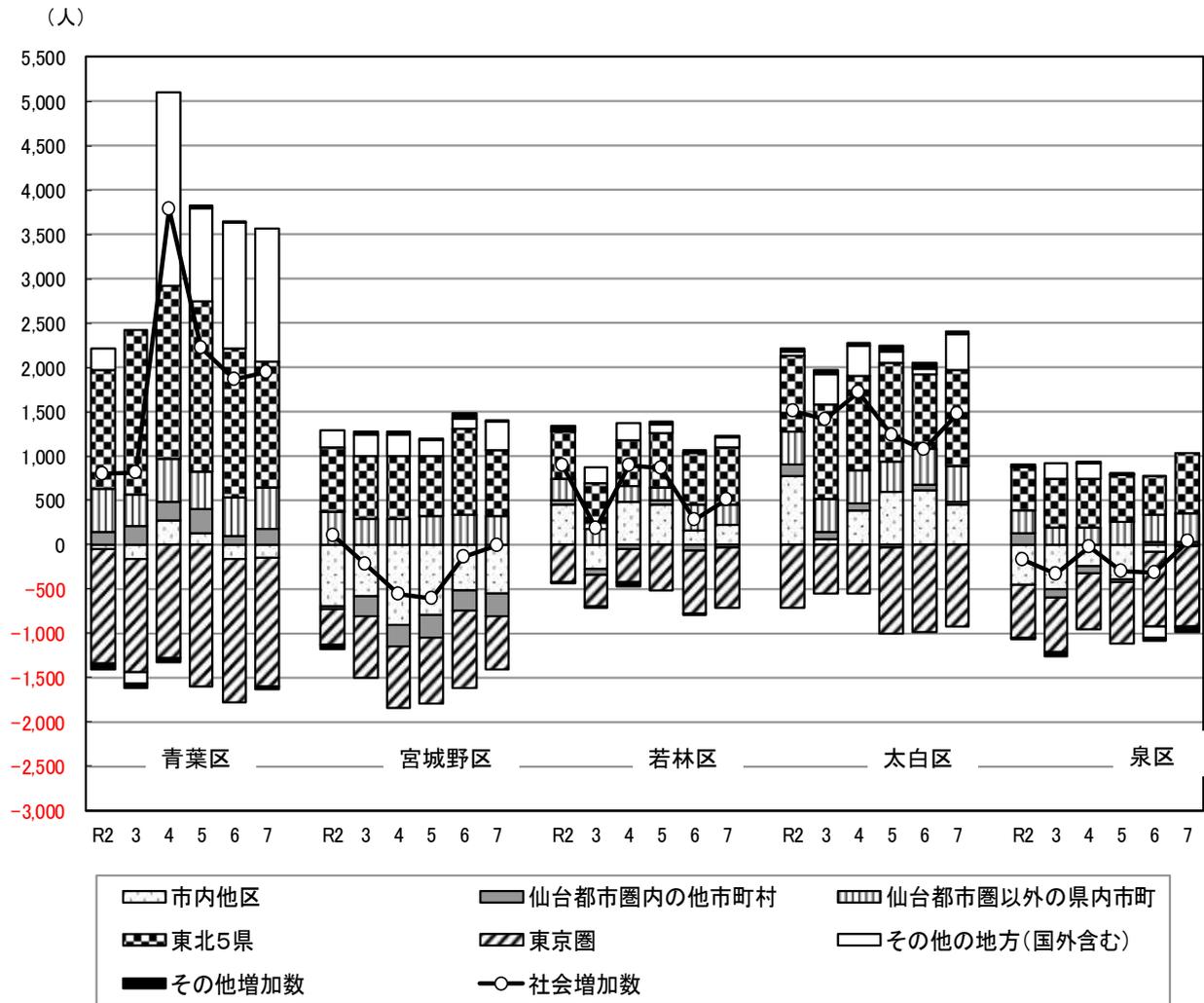


図 1 2 地域別社会増加数（転入数－転出数）－ 区 （令和 2 年～令和 7 年）



## 6 年齢（5歳階級）別の人口移動

年齢（5歳階級）別の人口移動をみると、転入数・転出数ともに最も多い年齢は20～24歳で、転入数11,480人、転出数9,125人でした。

（図14、統計表第5表）

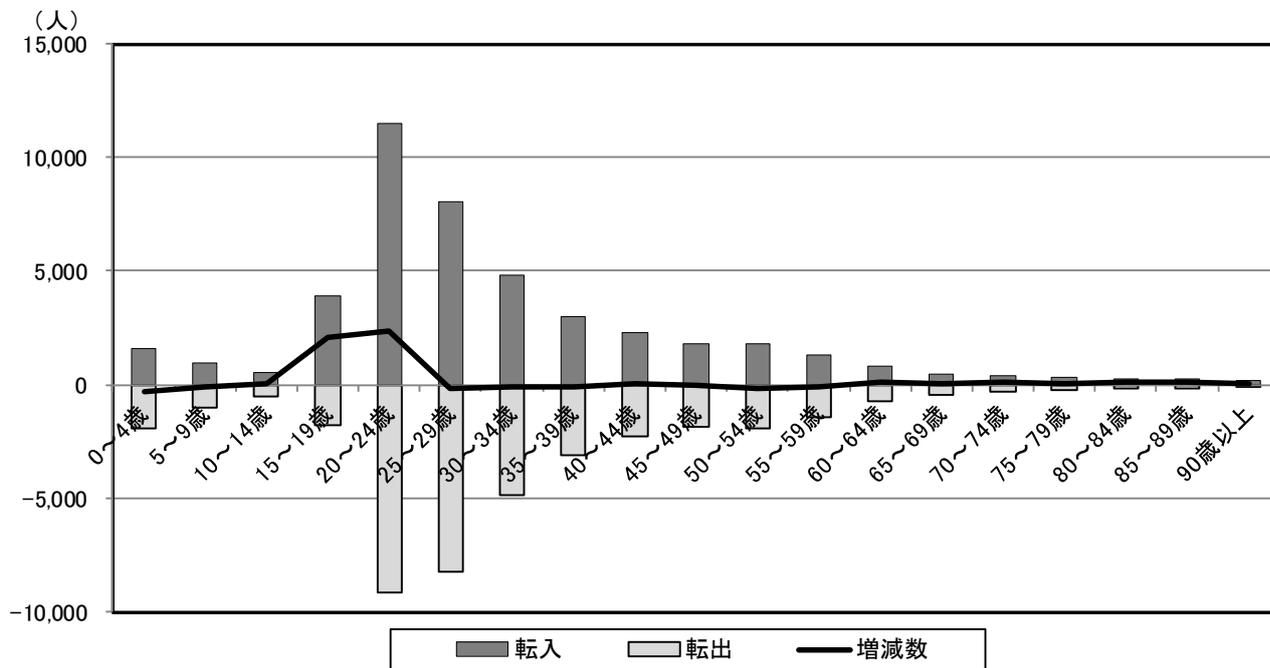


図14 年齢（5歳階級）別転出入数（令和7年）

20～24歳における転出入数を地域別にみると、転入割合が最も大きいのは東北5県からの転入（31.4%）で、次いで、宮城県内の他市町村からの転入（19.5%）となっています。また、転出割合が最も大きいのは東京圏への転出（40.6%）で、次いで、東北5県への転出（21.9%）となっています。

（図15、統計表第5表）

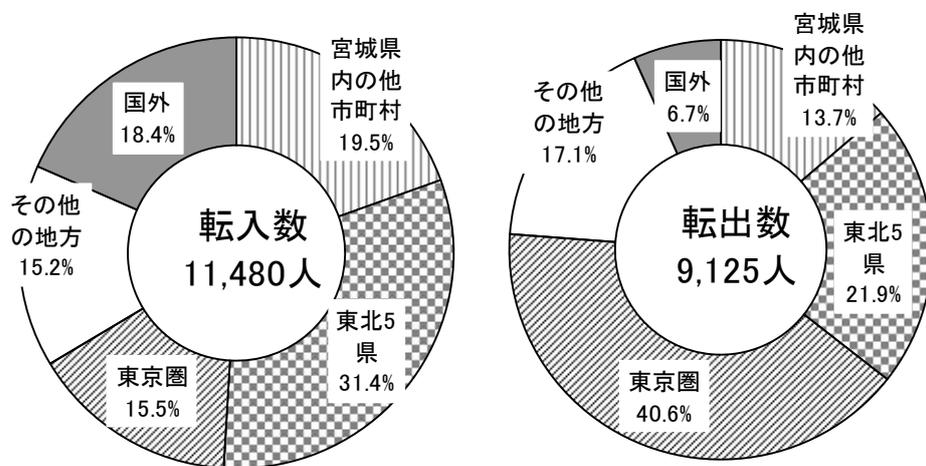


図15 転出入数の地域別割合—20～24歳（令和7年）

令和3年以降の年齢（5歳階級）別の人口移動の推移をみると、転入超過数については、これまで15～19歳が最も多い傾向があったものの、令和7年は20～24歳が最も多く、2,355人（11,480人－9,125人）でした。転出超過数については、0～4歳が最も多く、令和7年は334人（1,578人－1,912人）でした。

（図16、統計表第5表）

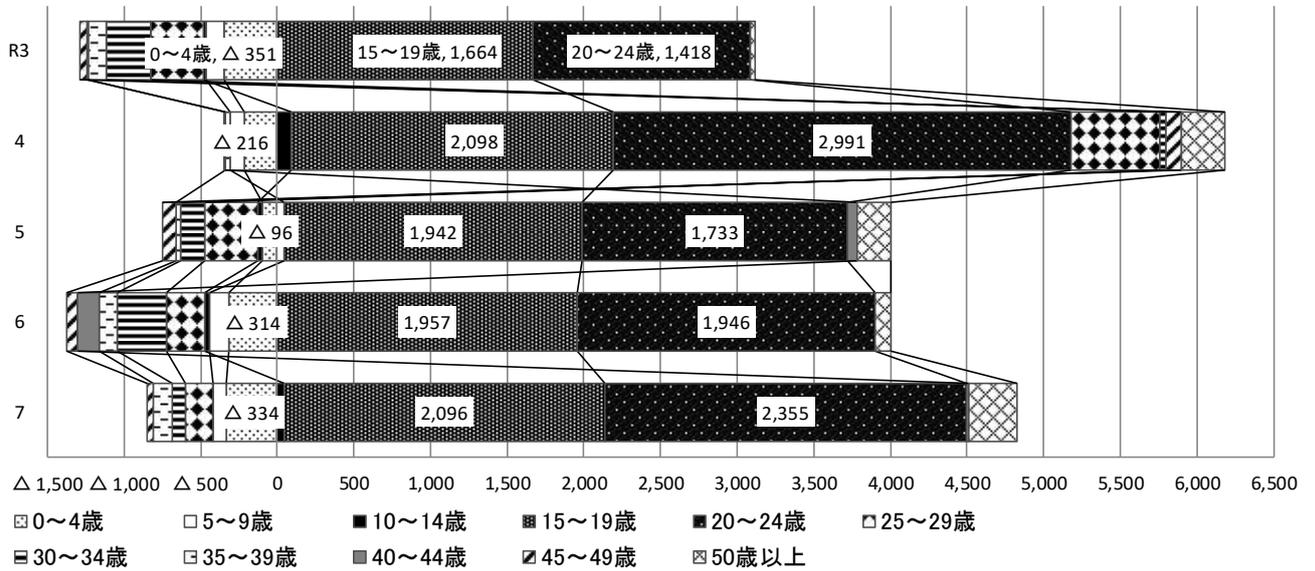


図16 年齢（5歳階級）別の人口移動の推移（令和3年～令和7年）

令和7年の転入超過が20～24歳の次に大きい15～19歳における転入数を地域別割合でみると、最も大きいのは東北5県（45.4%）で、次いで宮城県内の他市町村（18.0%）となっています。

また、令和7年の転出超過が最も大きい0～4歳における転出数を地域別割合でみると、最も大きいのは東京圏（28.6%）で、次いで、宮城県内の他市町村（29.6%）となっています。

（図17、統計表第5表）

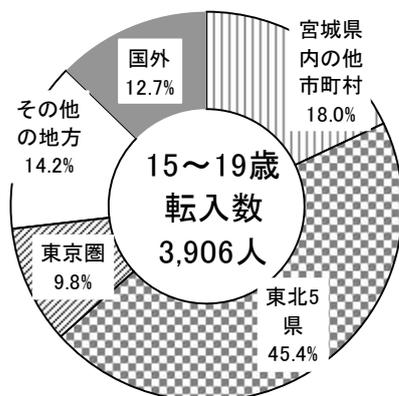


図17-1 転入数の地域別割合  
—15～19歳（令和7年）

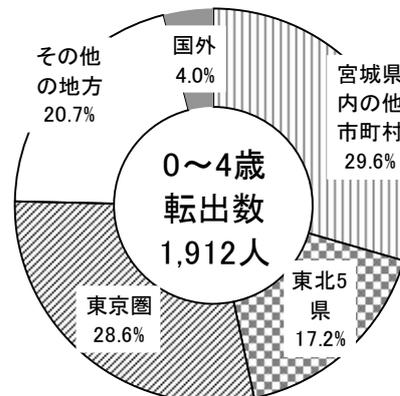


図17-2 転出数の地域別割合  
—0～4歳（令和7年）